

飲水思源

自動車販売のリーダー

8

菊池武三郎伝

わが国初の国産車が完成した。主眼はトラック生産に置かれていたが、民間需要を無視して戦時輸送は成り立たず、軍民両用の計画で国産車生産が始まったのだ。日産は横浜に、トヨタは愛知県刈谷の山中の拳母(ころも)に、それぞれ工場を設けた。

昭和12年、日産は新たに日産自動車販売を設立。当時の日産の販売組

織は大都市に直営の営業所を置き、他は大テリトリ制としていた。しかし、新たな販売会社は広域テリトリ制を廃止。各県単位で1店ずつ新たなディーラーを設置する方針を打ち立てた。

豊国で日産販売店のセツトアップの情報を知った菊池武三郎は、今こそ再起のチャンス到来だと思つた。奈良で日産車販売に乗り出す決意を固

奈良日産を設立



奈良日産時代の菊池武三郎

ディーラーで再起へ

め、日産首脳に働きかけた。2度目の豊国時代が、武三郎の第2の人生飛躍への機会をもたらすことになった。

12年8月から、日産自

動車販売は営業を開始した。同社の山本惣治社長は、従来の販売店網を整理して1県1店主義の販売店を進める中で、販売店のなかった県でディ

となつて新会社に出資してくれた。都司は明治16年生まれ。宇陀地方屈指の素封家で、県政界で存在感を示す熱誠の士として知ら

年。武三郎は自動車事業に、今度はディーラー経営者として再び挑むこととなった。(文中敬称略) Ⅱつづく、毎週金曜日掲載Ⅱ

ーラーとなる人材を探した人物だった。また奈良交通の創立者でもあった。

大阪営業所のテリトリだった奈良県にも新しく特約販売店ができることとなり、武三郎はこれに名乗りを上げた。武三郎は、以前から彼の事業を支援してくれていた都司太右衛門に資金面で相談。都司は名義上の社長

事務所は国鉄の奈良駅前(当時)に置いた。奈良自動車を手放し、サラリーマン生活に戻って約7